# 大里郡寄居町におけるタカチホヘビの記録

藤田宏之，石井克彦（川の博物館）

## はじめに

タカチホヘビ（*Achalinus spinalis*）は本州・四国・九州と、そのすぐ近くの沿岸島などに分布し、全長 30 ～ 60cm（千石, 1996）の小型のヘビである。土中、倒木、石の下、落ち葉の下などに生息し、おもにミミズを餌とする。鱗は真珠光沢があり、タイル貼り状で重ならないので皮膚は裸出しているのが特徴である。

埼玉県での本種の記録は少なく、おもに秩父地方での生息が確認されているが、埼玉県レッドデータブック 2008 では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている（埼玉県 ,2008）。

本種は大里郡寄居町（以下寄居町）では須甲（1973）による「風布」地区の字名だけ表記した記録が残っているが、「風布」地区は寄居町だけでなく、隣接する秩父郡長瀞町（以下長瀞町）にも「風布」地区は存在しているので、どちらの「風布」を表しているかは不明であり、寄居町内の記録かどうかは判断できない。のちに刊行された『寄居町の両生類･爬虫類』（中里 ,1981）では本種の記録についての記載はなかったが、2008 年に埼玉県立川の博物館敷地内で生息が確認された（藤田・石井, 2011）。その後 2009 ～ 2011 年にかけて寄居町内で 10 個体確認され、自然誌資料としてここに報告する。

図 1　埼玉県大里郡寄居町の位置

## 2009 ～ 2011 年の寄居町におけるタカチホヘビの記録

寄居町内において、2009 年から 2011 年にかけて、著者のひとりである石井による夜間のルートセンサスによって確認（B 地点での個体番号⑦は例外）された本種の記録を表 1 にまとめた。なお、本種が確認された各地点の環境の特徴は表 2 にまとめた。また、今回の記録は本種の調査を目的としたルートセンサスにではなく、捕獲による全長・頭胴長の計測、雌雄の判別はおこなっていない。

また、本種が確認された地点として、埼玉県における寄居町の位置（図 1）、A ～ E 地点の位置（図 2）、F 地点の位置（図 3）を図に示した。

## 考　察

本種が確認された A ～ E 地点は荒川右岸の外秩父山地にあたる。B 地点以外すべてアスファルト舗装された道路上であるが、D、E 地点は周辺が湿気の多いスギ・ヒノキ植林帯に挟まれている。C 地点は人家が近いもののクリ畑とスギ植林帯に挟まれている。A 地点は竹林と畑に挟まれ、やや開けているもののスギ・ヒノキ植林帯に隣接している。B 地点は渓流沿いの民家の敷地内であり、河畔林や庭木で樹木に囲まれ、スギ・ヒノキ植林帯までの距離は近い。いずれの地点も樹木が多く、昼間直射日光にさらされない環境が存在している。

山本（1981）による愛媛県上浮穴郡小田町の報告では、生息環境がスギ林、雑木林などの森林、山地集落の人家屋石垣（雑石積み）、河川敷、舗装道路の法面および農耕地付近であると述べているが、A ～ E 地点に共通する環境が含まれている。また、近隣の記録としては、同じ山系上（外秩父山地）の長瀞町教育委員会（1997）がある。

一方、F 地点は藤田・石井（2011）による記録がある小園地区だが、その後生息が確認されていない。F 地点は標高が約 80

mの荒川右岸の河岸段丘上であり、周辺で生息に適していると考えられる環境は局所的に存在する斜面林のみであり、個体数は少ないと考えられる。

金尾地区の隣接しているA～C地点では集中的に8個体記録されており、同地区では高い生息密度であると考えられる。山本(1981)は1ケ所から複数の本種が確認されることは31%であったと述べていることからも、本種の好む環境がA～C地点付近に存在していることが示唆された。さらに山本（1984）は本種の好む生息環境について、水はけ、通気性の良い地質の地表を腐葉土が覆い、適した湿度が保たれることと述べている。また、餌となるミミズ類が多く生息していることも述べている。A～C地点付近では8個体すべて本来の生息環境とはいえないアスファルト道路上で確認していることから、山本が述べている条件を満たす環境が存在するかを調査する必要があると考える。

山本（1981）は26個体の記録のうち23個体は林道開設工事、改良工事などの機会に確認され、偶然見かけたのはわずか3個体であり、普段見かけることは非常に少なく、歩行による確認は困難と述べている。しかし、今回確認された記録はすべて本種の調査を目的としたルートセンサスではなく、偶然観察された個体である。また、B地点を除いてすべて夜間の雨天時に本来の生息環境とはいえないアスファルト道路上と特定の条件下で確認された記録である。見かけることが少ないとされる本種が特定の条件下ながらもわずか2年あまりで10例も確認されていることから、寄居町から長瀞町にかけての外秩父山地では広範囲で高い生息密度が示唆される。

さらに今回興味深い記録として、A地点で2個体同時に観察された（写真1）が、かなり体色が異なっていた。大野（1987）はメスでは35cmを越えるころから黄褐色系の鮮やかな体色に変化する個体が多いと述べているが、⑧の個体（写真2）については黄褐色系の体色であり、さらに⑨の個体（写真3）よりかなり大型であることからメスと考えられる。⑨の個体については、残念ながら雌雄の確認をしていないので、ペアであるかは不明である。しかしながら、約300 m離れたB地点では幼体（写真4）が確認されていることから、A～C地点付近で繁殖がおこなわれている可能性は高い。

さいごに、本種は普段見かけることは非常に少なく（山本,1981）、夜行性といわれ、一般に存在がほとんど知られていないので、情報も少なく記録に残り難い。それゆえに生態もほとんど解明されていない。また、今回の記録においても本種を主対象

表1　確認されたタカチホヘビの詳細

| 地点 | 年月日 | ステージ | 確認地点 | 確認場所 | 天気 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 2009.7.3 | 成体 | E 寄居町折原 | アスファルト道路上 | 小雨 | |
| ② | 2009.7.19 | 成体 | D 寄居町風布 | アスファルト道路上 | 雨 | |
| ③ | 2009.8.21 | 成体 | C 寄居町金尾 | アスファルト道路上 | 雨 | |
| ④ | 2009.9.17 | 成体 | C 寄居町折原 | アスファルト道路上 | 曇り | |
| ⑤ | 2010.5.26 | 成体 | C 寄居町金尾 | アスファルト道路上 | 雨 | |
| ⑥ | 2011.5.23 | 成体 | C 寄居町金尾 | アスファルト道路上 | 雨 | |
| ⑦ | 2011.7.13 | 幼体 | B 寄居町金尾 | 民家の敷地内 | 晴れ | 全長13cmの幼体 |
| ⑧ | 2011.11.11 | 成体 | A 寄居町金尾 | アスファルト道路上 | 霧雨 | ⑨と同時に確認、黄褐色の個体 |
| ⑨ | 2011.11.11 | 成体 | A 寄居町金尾 | アスファルト道路上 | 霧雨 | ⑧と同時に確認、灰褐色の個体 |
| ⑩ | 2011.11.19 | 成体 | C 寄居町金尾 | アスファルト道路上 | 雨 | |

表2　タカチホヘビが確認された各地点の環境の特徴

| 地点 | 環境の特徴 |
|---|---|
| A | 竹林と畑に挟まれた約2.0mの道路上。 |
| B | 渓流沿いの民家の敷地内。河畔林が発達している。 |
| C | 渓流沿いのクリ畑とスギ植林に挟まれた約5mの道路上。 |
| D | 渓流沿いで、スギ・ヒノキ植林に挟まれた約4mの道路上。 |
| E | スギ・ヒノキ植林に挟まれた約4mの道路上。枯れ沢が横切っている。 |
| F | 埼玉県立川の博物館敷地内の物置の裏。南側に斜面林。（藤田・石井,2011より） |

とした調査ではなく、データは断片的にしか蓄積できなかった。今後は高密度と考えられる区域での調査や日常的には偶然の観察に備えて計測器具を常備するなどの工夫をし、詳細な計測データを蓄積する必要があると考える。さらに、本稿によって本種が注目され、有益な情報からデータの蓄積へとつながることも期待したい。

## 謝　辞

本稿をまとめるに際し、埼玉県立自然の博物館の碓井徹氏ならびに楡井尊氏には文献資料の協力をいただいた。ここに謝意を表す。

## 引用文献

藤田宏之・石井克彦（2011）埼玉県立川の博物館周辺の爬虫類相．埼玉県立川の博物館紀要 11：1-4.

長瀞町教育委員会（1997）長瀞町の動物．長瀞町史　長瀞の自然．長瀞町，長瀞，pp167-288.

中里邦夫（1981）寄居町に生息する動物　爬虫類・両生類．寄居町史資料集寄居町の自然　動物編．寄居町教育委員会，寄居，pp33-38.

大野正男（1987）日本のタカチホヘビ．日本の生物，1（10）．文一総合出版，東京，pp48-55.

埼玉県（2008）埼玉県レッドデータブック 2008 動物編　爬虫類．埼玉県環境部みどり自然課，さいたま，108-111.

千石正一（1996）タカチホヘビ．日本動物大百科 5　両生類・爬虫類・軟骨魚類．平凡社，東京，pp100.

須甲鉄也（1973）秩父地方の爬虫類．秩父自然科学博物館研究報告 17：95-101.

山本栄一（1981）愛媛県小田町におけるタカチホヘビ *Achalinus spinalis* PETERS について．Snake，13（2）：137-141.

山本栄一（1984）愛媛県小田町におけるタカチホヘビ *Achalinus spinalis* PETERS についてⅡ．Snake，16（1）：49-55.

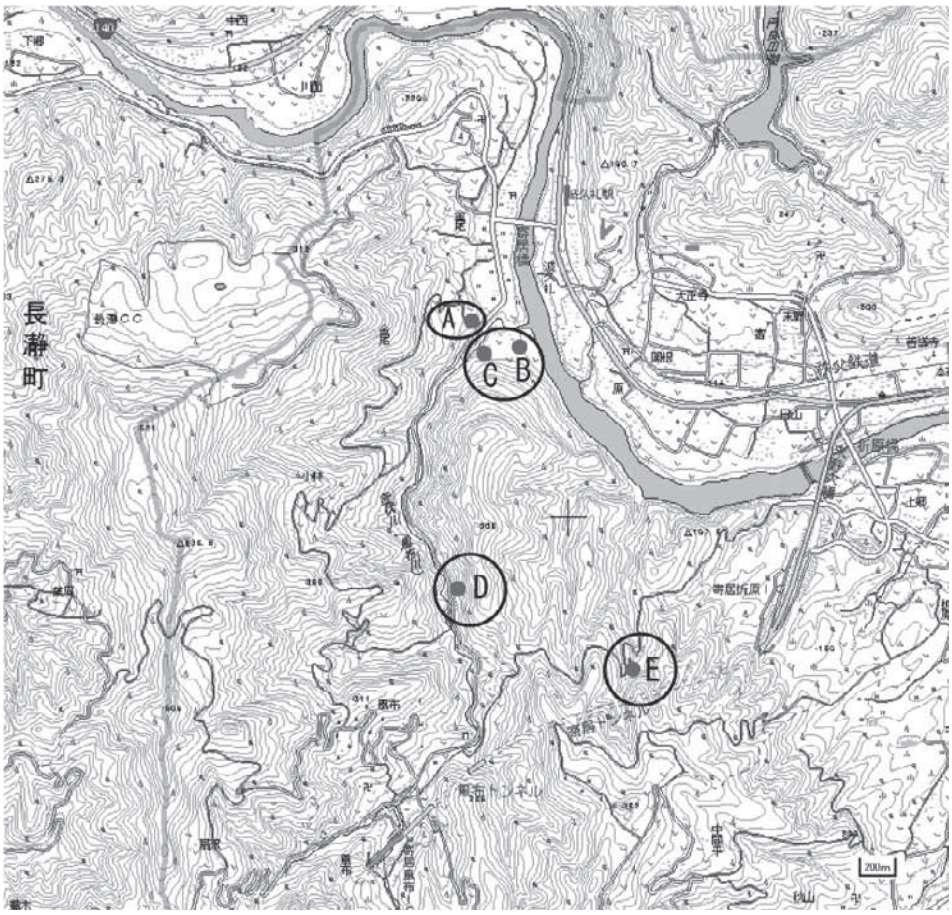


図２　Ａ～Ｅ地点の位置（国土地理院 1/25,000 地形図『寄居』の一部を改編）

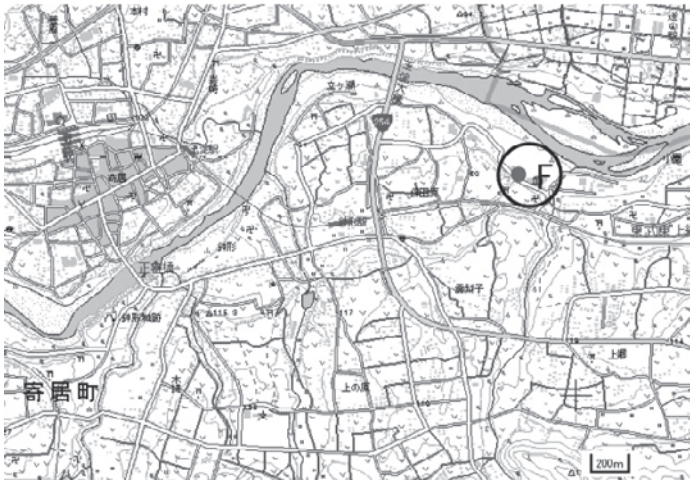


図３　Ｆ地点の位置（国土地理院 1/25,000 地形図『寄居』の一部を改編）

写真１　Ａ地点で２個体同時に発見された⑧、⑨の個体

写真２　Ａ地点の黄褐色の⑧の個体

写真３　Ａ地点の灰褐色の⑨の個体

写真４　Ｂ地点で発見された幼体

写真５　Ａ地点

写真６　Ｃ地点